

ヌカカ類の捕集成績 (2012~2013)

高橋 史恵

The Habitation Situation of the Ceratopogonidae(2012~2013)

Fumie TAKAHASHI

キーワード：ヌカカ類，ライトトラップ

ヌカカ類¹⁻³⁾は、ヒトや鳥類、家畜などを襲い吸血する体長 1 mm 前後の飛翔昆虫である。水辺などを訪れた観光客、釣り人などの頭髮にもぐりこみ複数にわたって吸血し、激しい痒み等の被害を与える。

今回、ライトトラップ型捕集器を用いて、豚と鶏が飼育されている環境のヌカカ類の捕集調査を実施する機会があり、2 種のヌカカ類を捕集したので結果を報告する。

調査方法

1 捕集方法

夜間、ライトトラップ型捕集器を稼働させ、UV に誘引されたヌカカ類成虫を小型ファンで下部の捕集網に捕集した。

2 調査場所、環境

中央市。鶏舎と豚舎があり、敷地内には高木や植え込みなど様々な緑地が広がっている。周辺に民家はない。

3 調査期間

2012 年 5 月~11 月、2013 年 5 月~11 月 (捕集数が 2 週間連続で 0 頭となった時点で終了した)。

4 稼働日、稼働時間

週 1 回稼働 (午後 5 時から翌日午前 10 時)。

5 同定方法

クロロホルムにて殺虫後、実態顕微鏡および光学顕微鏡にて観察・同定を実施した。

結果と考察

1 捕集数および種類

捕集成績は表、図 1 に示した。2 年間で捕集されたヌ

表 捕集成績

種名	2012	2013	合計
ニワトリヌカカ雄成虫	66	1,888	1,954
ニワトリヌカカ雌成虫	1,329	1,469	2,798
キブネヌカカ雄成虫	6	3	9
キブネヌカカ雌成虫	12	9	21
計	1,413	3,369	4,782

カカ類成虫は 4782 頭だった。捕集数の最盛期は 7 月から 9 月で、北岡ら⁴⁾の報告とほぼ同じであった。生息が確認された種は、ニワトリヌカカ (*Culicoides arakawae*)、キブネヌカカ (*Culicoides kibunensis*) の 2 種であった。なお、シナノヌカカ (*Culicoides sinanoensis*) に酷似した種が 2012 年 10 月中旬に 9 頭捕集したが、翅の破損により同定には至らなかった。今回の捕集成績からは除外した。

最も捕集数が多かったニワトリヌカカは計 4752 頭 (雄 1954 頭、雌 2798 頭) で、全体の約 98 % を占めた。鶏舎脇にトラップを設置したことから、ニワトリ吸血性⁵⁾が高いニワトリヌカカが優位な成績となったと考えられた。また、一般的にニワトリヌカカは水田から発生するとされており⁵⁾調査場所の周辺地域には水田があり、関連がある可能性が高いと考えられた。なお、聞き取りでは、調査場所勤務関係者らのヌカカ類による吸血被害は、特にない。

2 性差

2012 年は雄成虫 72 頭、雌成虫 1342 頭と雌成虫が 95 % を占めたが、2013 年は雄成虫が過半数 (56.0%) を占め、2 年間で性差が異なった (図 1)。雄成虫の捕集数が 2013 年に増加した理由は不明である。

3 生息時期

産卵のため吸血をおこなう雌成虫の生息時期は、ニワトリヌカカは 5 月から 11 月上旬、キブネヌカカは 5 月か

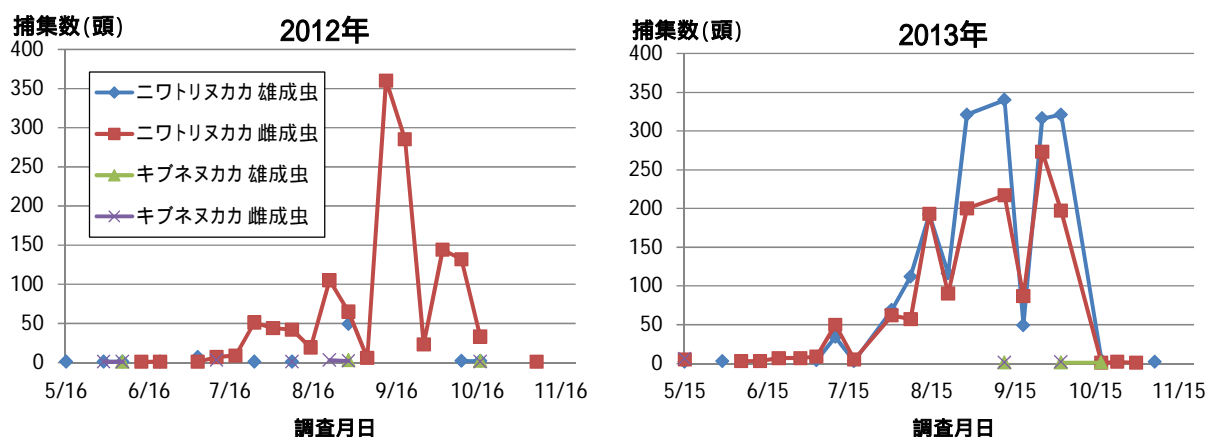


図1 ライトトラップ法捕集成績

ら10月中旬であった。

4 雌成虫の捕集数の推移

ニワトリヌカカ雌成虫の月毎の捕集数の推移を図2に示した。1年間に捕集されたニワトリヌカカ雌成虫は約1400頭で、2年間の捕集数の経月推移は一致した。キブネヌカカは、1年間に9頭が捕集された。月毎の捕集数は調査年により異なり一定ではなかった。

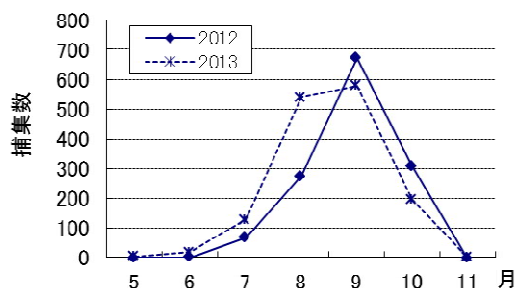


図2 ニワトリヌカカ雌成虫の推移

謝 辞

ご協力くださった関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 加納六郎 篠原哲著:日本の有害節足動物,海大学出版会, (1997)
- 2) 日本家屋害虫学会編:家屋害虫辞典, 井上書院, (1995)
- 3) 梅谷献二:原色図鑑 野外の毒虫と不快な害虫, 全国農村教育協会, (1994)
- 4) 北岡茂男ら:東京近郊におけるニワトリヌカカ各期の季節的消長, 第55回日本獣医学会, (1963)
- 5) 早川博文ら:吸血昆虫類の調査用アニマルトラップの試作, 衛生動物, 41, .2, 121~125, (1990)